

発売中
100円

憲法9条を変えて、
「戦争する自衛隊」にして
いいのですか (憲法会議・発行)

生活の不安や苦しさがつづらられる

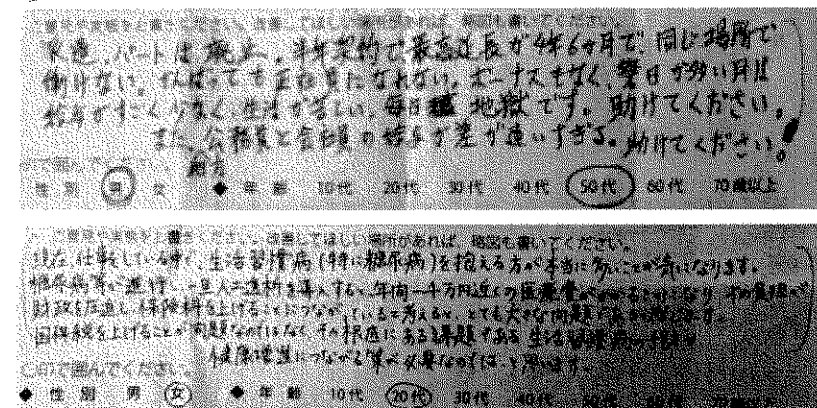
日本共産党市議団(大谷敏彰・日隈知重)は、市民アンケートを始めました。党員、後援会員の協力でアンケートを配り、返信用封筒で市民から回答が寄せられています。

んな優しくない世間では、誰も産みたがらない。少子化も当然」と怒りの訴え。老老介護で暮らしている両親を気づかう娘さんは「今後(両親が)動けなくなつて、施設に入りたくても年金で入れるだけの金額をもらっていない。子どもとしては時々顔を出し、手伝いはできても、自分の生活もあり、金銭的に援助はできず…」と不安をつづっています。

3人の子をもつ50代の父親は「次女は、小学校高学年、中学でいじめを受けた。その時のトラウマもあり、市外に転校。今でも統合失調症と闘っています。いじめや不登校、なかなか親にも言えず困っている人がたくさんいます。います」と不安を寄せています。党市議団は、アンケートをもとに市、県、国への要望をまとめます。

共産党市議団が市民アンケート

ただいま
返信350人



▲市民から返信されたアンケート(上は50代の派遣労働者が「助けて」とSOS。下は医療現場で働く20代の訴え)

50代の派遣労働者は「半年契約で、最高延長が4年6カ月。頑張っても正社員にはなれない。毎日地獄です。助けてください」とつづられています(写真上)。医療現場で働く20代女性は「生活習慣病(特に糖尿病)を抱える方が本当に多いことが気になります。人工透析を導入すると、年間1千万円近くの医療費がかかる。生活習慣病の予防や健康増進につながる策が必要なのは」と提案しています(写真下)。

弁当を作ってもらえない

五和公民館で開催された市議会意見交換会では、元教師から「弁当を作ってもらえない子どもがいる」「厳しい家庭状況の中で過ごしている子どもの割合は、どれくらいなのか」と問題になりました(5月14日)。

中学校の教員をしていた市民は「当時、某学校で7クラスあった。全部で7人から8人、弁当の日に、弁当を忘れる子どもがいた。その中には、お母さんが作ってくれなかったのではないかと、子どもも聞いた」と話します。先生から話しを聞いたという市民は「その先生は週に2回、カレーライスを子どもに作って食べさせている。日ごろのことを見て、食べさせてもらってないということ把握している。親が子どもの世話をしない現実がある」と話します。

日田市で、子どもの貧困実態を調査したものではありません。日隈市議は「子どもの貧困がわかるアンケートの仕方がある。勉強机が家庭にあるか、夕食はちゃんと食べているかなど、アンケートのやり方を工夫してやっている自治体もある。まず実態調査が必要」と提案しました。

大阪市など府内13市町と連携して、子どもの生活実態調査したものがありません。日隈市議が4月、子どもの貧困についての議員研修で話しを聞きました(写真下)。

子どもの貧困 意見交換会でも議論になる

子どもの貧困について講義する森裕之・立命館大学教授

▼子どもの貧困について講義する森裕之・立命館大学教授 (写真中央、4月17日、日隈市議撮影)

